
CRASH!

浦沢 椋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CRASH！

【Nコード】

N3624N

【作者名】

浦沢 椋

【あらすじ】

舞台は現代。

繰り返される日常の裏側では、様々な能力を持った”訳あり人間”達が個々の目的の為に動いていた。

希少な血を引く少女とそのコピー、道を誤った元恋人を助けたい青年、人間的に問題のある和尚、巻き込まれただけの一般人 等

願いを叶えることが出来るのは一体、誰だろうか

opening(前書き)

主人公はいますが、視点がよく他のキャラに移ります。
なるべく解りやすく表現出来るようにしますが、何か気付いた点が
あれば感想よりお願いします。

opening

世の中には知り得ぬことが沢山ある

知らぬ方が良いこともまた然り

「いたぞ！こつちだ！」

「誰か銃持つてる奴いねえのか！」

「馬鹿、こんな街中でぶっ放す気が！」

それは些細なことかも知れないし、重大なことかも知れない

「やべえ、結構な数追ってきてるわ」

「だからちゃんと足止めすれば良かったのに！」

「時間が無かつたんだ、仕方ないだろ！」

「一旦二手に別れよ。適当に巻いたら落ち合おう」

大抵はそれを知らぬことでその人間の日常や、もっと云々と世界が成り立っていたりする

例えるならそれは天秤に似ているかも知れない

「お前は女を追え！」

「おうっ」

「ああもう、しつこいなっ」

絶妙なバランスで水平を保つ、天秤

しかし、もしも

「は、ああ、今日もバイト疲れ　　?!」

「わあっ?!」

ド
ン
ッ

「くっく」

「いだだだ。すみません、大丈夫ですか　舟越さん?!?!」

「ツ！境?!」

「女あああ!!ぶち殺してやんぞ!!」

何かの拍子に天秤が均衡を崩してしまったら？

突如、自分の日常に何か異質なものが紛れ込んだら？

「やば」

「なななな　一体これはどうゆう」

「いいから走って、早く!!」

それをどう取るかは貴方次第。

|

此方（こちら）

授業中、僕、境清澄は昨夜のことを思い返していた

斜め後ろの席をちらりと見遣るが、やはりそこは空席だ

昨夜、某ホテルにて

「はあっ?! 一般人を巻き込んだ?!」

「う、ごめん」

訳のわからない場面に遭遇してしまった僕は、ただ二人のやり取りを見ていた

「暗かったし距離はあったから、境君の顔は見られてないと思うんだけど」

「そうゆう問題じゃ」

「わかってる！わかってるよ」詳しくは教えてくれなかったが、理解出来たのは

・僕はやばい場面に遭遇してしまった

・一緒にいた僕の安全が確認できるまでは距離を置いてだが護ってくれる

・絶対に絶対にこのことは秘密にする

ということだ

まさか自分があんな世界を見てしまうなんて
しかも身近な人がそちら側とは

「はあ」

小さく溜め息をつく

いつの間にか授業が終わっていたらしいことに気付く

「帰る」

僕は鞆に荷物を入れると、教室を後にした

その日の夜、昨日とは別のホテルの一室

「で、どうだった？」

「今日のところは変わったこと無し。周りに不審な奴も見当たらなかったよ」

二人はこちらの世界で組んで動いている、割と有名な二人組だ

女の方は舟越 舞

表での名前だが。

こちらでは雪那せつなと呼ばれている
ちなみにその名前は出会ったばかりの頃相方にもらったものだ

男の方は伊藤 春樹

通称ハル

年齢は20代前半くらいだろうか

一見ただけではこちらの人間とは思えない、穏やかな雰囲気を感じている

本名を伏せるのは裏と表の使い分けの為だ

裏の人間でも、表では別の仕事をしていたりなんかすることも少ない

まあ、ハルのようなどつぷり裏の人間にとっては、身元や過去を隠す為だろう

「そっか。お疲れさん。学校と両立って大変そうだね」

「平気、もう慣れちゃった」

二人はとある目的で一緒に動いていた

事情は色々複雑だが、簡単に言う人と人探し、といったところだろう
探している人物は違うが、それに至るまでの過程が同じなのだ

ちなみに過程というのは大雑把にいうと、地道にあちこちの組織を潰したりして情報収集をすること

二人が組むことになった理由についてはまたの機会にでも

ちなみに昨日は、ある組に大量に保管してあるいけない薬を爆破したため、あんなことになっていた

「 なかなか見付からないよね」

「 まあ、虱潰しな作業だからな」

不意に床でぽそりと呟いた雪那に、ソファに横になりながらパソコンをいじっているハルは答えた

「明後日の仕事、頑張ろうね」

朝方、僕はふと目を覚ました

何故だろう、あれから何だか気分が落ち着かない

僕は気晴らしに、と散歩に出掛けることにした

空を見ると、うつすらと東の空が白み初めている

何と無く、たまにすれ違う犬の散歩をしているおじさんやジヨギン
グ中の女の人を観察してしまいがら、舟越さんに説明されたこと
を思い出す

「こつちの世界には色々な能力を持った人間がいるの。

普通の人間だけど、

鍛練を積んで武器を扱えるようになった人もいれば

天性的な特殊能力みたいなのを持った人もいる。

例えば術とか使ったりね」

「じ、術ですか」

「うん。まあ、大抵みんな何か訳あり」

「今一ピンとこないけど」

「そりゃそうだ。いきなりこつちを覗いちゃったんだもん
はほんとにごめん」
それ

周りを見てもどの人間が裏で、なんて僕には見分けがつかなかった

まあ、当たり前だけれど

もし僕に何も起こらなかったとしても、あんなこと聞いちゃったら
なんだかなあ

気にならないといえは嘘になる、ような気がする

気付くと、辺りは既に明るくなっていた

帰って二度寝でもするかな

.

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3624n/>

CRASH!

2010年10月20日14時03分発行